

2017 年度点検・評価シート

※下記の指摘事項、課題を踏まえて、Ⅱ点検・評価 Ⅲ【達成目標】欄を記述してください。

（進捗状況を【現状説明】に記述し、必要に応じて新たに【目標】を設定する。）

2016 年度大学評価（認証評価）結果指摘事項 なし
2016 年度外部評価委員会指摘事項 なし
前年度からの課題（2016 年度点検・評価シート IV 次年度への課題 より転記） スポーツ科学科においては、引き続き入学定員超過率の適正維持に努める。 健康科学科においては、改定した推薦入試選抜基準についての妥当性を学科入試委員会にて検討し、改善点があれば学科・学部教授会に提案する。 障がいのある学生受入について、全学の受け入れ方針の進捗を確認し、現段階で策定している学科独自の受け入れ方針について必要に応じて修正する。

I 評価項目・担当部局

対象部局	スポーツ・健康科学部
評価基準 5	学生の受け入れ 【自己評価 A】
点検・評価項目(1)	5-1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
評価の視点	求める学生像の明示
	当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示
	障がいのある学生の受け入れ方針
点検・評価項目(2)	5-2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学選抜を行っているか。
評価の視点	学生募集方法、入学選抜方法の適切性
	入学選抜において透明性を確保するための措置の適切性
点検・評価項目(3)	5-3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
評価の視点	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性
	定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応
点検・評価項目(4)	5-4 学生募集および入学選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

II 点検・評価 対象期間は 2016 年 4 月～2017 年 5 月までとする。（教員数、学生数などのデータの基準日は 2017 年 5 月 1 日）

【点検・評価項目ごとの現状説明】

5-1	スポーツ・健康科学部は、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づき、スポーツや健康に関する高い教養と専門知識を学び、社会人として協調性を持って業務を遂行する能力を身につけ、スポーツや健康の分野で多様な人々とのコミュニケーション能力、リーダーシップを発揮できる人材を育成するために、下記のような人物を求める。 アドミッション・ポリシー 1. スポーツ科学・健康科学を学ぶための十分な基礎学力を有する人 2. スポーツ・学校教育・健康と医療・食品・環境の分野で活躍したい人 3. 高い学習意欲を持ち、将来にわたりスポーツ科学および健康科学の増進に邁進する意志を持つ人 4. 常に自己鍛錬を怠らず、自らの人間性を高めようと努力する気概のある人
5-1	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 学生の受け入れ方針の策定について【○】 具体的事例： 学生の受け入れ方針（アドミッションポリシー）については、各学科の教務委員会を中心として、2 月に開催された 3 つのポリシーに関するセミナーにおける指導内容をもとに、9 月末を期限とした新規策定の作業に取り掛かっている。（根拠資料：学部教授会での報告・提案）
5-2	学科主任、学科入試委員会により推薦選抜の方針についてとりまとめ学科協議会にて提案・承認を得たうえで、それに基づいて推薦試験当日において、アドミッション・ポリシー、入試募集要項、志願者状況を考慮しながら判定協議を行っている。受験結果については大学ホームページ、次年度 CROSSING において公表している。 スポーツ科学科では、障がいのある学生の受け入れ方針に関連して、昨年度までに作成した学科独自の「実技科目の対応指針」

	に基づいて、昨年度の受験前相談にあたった。(根拠資料：実技科目の対応指針) 健康科学では、推薦試験による入学予定者に対して、進研アドと連携し、その教材を用いて入学前教育を実施した。(根拠資料：入学前教育に関する資料) 健康科学科では、2016 年度目標にて「推薦入試基準(2015)の適正について検討する」を掲げた。学科入試委員会が中心となり推薦入試基準を見直し、各推薦入試方式に応じた基準を作成し 2016 年度入試に運用した (根拠資料：学科協議会での報告)
5-2	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 (1) 学生募集方法、入学者選抜方法について【○】 具体的事例： スポーツ科学科は、昨年度より自己推薦前期入試において A・B 方式を導入し、受験生の自己アピールの特性に応じた入学者選抜を実施した。学科入試委員会を中心に、今年度入試方針について検討し、引き続きこの方式を用いることで受験者の動向を探ることを学科協議会に提案し、方針として承認された。(根拠資料：2018 年入試募集要項) 健康科学科では推薦入学時における判定基準について、学習障害者等も配慮した基準を新たに設けた。また、昨年度の定員割れの原因について、学科入試委員会を中心に検証し、今年度の合否判定、合格ラインの設定について検討して入試に臨む。(根拠資料：合否判定資料?) (2) 入学者選抜において透明性を確保するための措置について【×】 具体的事例：
5-3	在籍学生数の管理については、学科入試委員会で毎年度の入学受入数を確定し、さらに合否判定において、単年度入学定員超過率および 4 年間の平均入学定員超過率を勘案しながら適切に行っている。2013～2017 年度入試の入学定員に対する入学者数比率 (入学定員充足率) の学部平均は、1.12 倍である。学科別では、スポーツ科学科が 1.18 倍、健康科学科が 1.06 倍である。また、2017 年 5 月 1 日現在、スポーツ・健康科学部の収容定員に対する在籍学生数比率 (収容定員充足率) は、1.12 倍である (d1-表 4、B5-22 d2-表 33)。 スポーツ科学科では、2016 年度入試において入学者数が入学定員超過率を超えてしまったが、2017 年度入試においては、受験者の動向を慎重に捉えながら合格ラインを設定して合否判定を行った。その結果、2017 年度入学定員超過率は 1.07 倍となり、定員超過とならない範囲で収めることができた。(根拠資料：入試結果・入学者数) 健康科学科は、2017 年度入試における合格手続き方法の変更も影響してか、例年とは異なる合格者の手続き状況となったため、定員を満たすことができなかった。これについて、学科入試委員会を中心に検証し、今年度の合否判定、合格ラインの設定について検討して入試に臨む。(根拠資料：合否判定資料?) 中期目標に「入試が一定の学力水準を維持するための選抜機能を果たすようにする。」を掲げている。これについて、学力選抜 (一般入試) と非学力選抜 (推薦入試等) による入学者の比率を指標とすると、健康科学科は、一般入試 48 名 (50%)・推薦入試等 48 名 (50%) であり、スポーツ科学科は、一般入試 79 名 (59%)・推薦入試等 55 名 (41%) であり、それぞれの選抜群の比率は適正と判断する。
5-3	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 (1) 収容定員に対する在籍学生数比率について【×】 具体的事例： (2) 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応について【×】 具体的事例：
5-4	学部として、学生募集および入学者選抜が公正かつ適切に実施されているかは、学科自己点検部局委員会、入試委員会等で定期的に検証し、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしている。
5-4	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 学生募集および入学者選抜の検証に関する責任主体・組織、権限、手続きについて【×】 具体的事例：

【効果が上がっている事項】

5-1	
5-2	
5-3	
5-4	

【改善すべき事項】

5-1	学生の受け入れ方針 (アドミッションポリシー) については、見直したうえで新規策定する。
5-2	健康科学科では、2015 年度入試において、推薦入試における学習障害者への対応が現行方式において充分でない事が指摘さ

	れたため、推薦入試選抜について見直しを検討する。
5-3	2016 年度入試において、スポーツ科学科の入学定員超過率を超える人数となってしまうため、今年度入試においては、入学定員超過率の範囲で収まるよう合格判定の手続きを慎重に行う。
5-4	

Ⅲ 【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの	評価				
			2014	2015	2016	2017	2018
中期目標 (2014～ 2018)	5-2,5-3 安定的な志願者・入学者を確保し、学力選抜（一般入試）と非学力選抜（推薦入試等）による入学者の適正な比率を保つ。入試が一定の学力水準を維持するための選抜機能を果たすようにする。	入学定員が適正に確保されている。 学力選抜（一般入試）と非学力選抜（推薦入試等）による入学者の適正な比率が保たれている。	→		A	A	
16 年度 目標	5-2 健康科学科推薦入試基準(2015)の適正について検討する。	入試委員会にて、左記についての問題点・改善点をまとめる。			S		
	5-3 入学定員超過率を適正に維持する。	本年度入試募集要項、入試結果			A		
17 年度 目標	5-1 学生の受け入れ方針（アドミッションポリシー）については、見直したうえで新規策定する。 5-2 スポーツ科学科では、自己推薦前期において、受験生の自己アピール情報を把握しやすい方式を導入するために、出願フォーマットを作成し、効率的かつ正確な受験生情報の把握を目指す。 5-2 健康科学科では自己推薦入試選抜方法の見直し、筆記試験を導入することとし、学科の求める人材の獲得に努める。 5-3 入学定員超過率を適正に維持する。	新規策定後のアドミッションポリシー 当該出願フォーマット 筆記試験の導入についての教授会承認 合格手続き状況				S S S A	

Ⅳ 評価専門委員会

5-2【現状】スポーツ科学科の定員充足については、評価できます。健康科学科は、今後学習障害者への対応を含め、安定した入学定員が維持できるよう努力を期待します。
5-3【改善】入学者の定員超過の厳格化に伴い、スポーツ科学科の入学者の定員超過において、引き続き適切な対応を期待します。

Ⅴ 所見への対応

--

Ⅵ 次年度への課題

--

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

A5-1	大学案内「CROSSING2017」
A5-2-1	2017 年度 大東文化大学 一般入学試験要項
A5-2-2	2017 年度 外国人留学生募集要項[学部生]
A5-2-3	2017 年度 社会人特別選抜試験要項

A5-2-4	2017 年度 編入学試験要項（3 年次編入）（2 年次編入）
A5-2-5	2017 年度 科目等履修生募集要項
A5-3-1	推薦入学試験要項【公募制推薦/自己推薦(前期)(後期)】
A5-3-2	2017 年度 指定校推薦入学試験要項
A5-3-3	2017 年度 大東文化大学第一高等学校推薦入学試験要項
A5-3-4	2017 年度 工学院大学附属高等学校推薦入学試験要項
A5-3-5	2017 年度 スポーツ推薦入学試験要項
A5-6	大東文化大学学則 《既出》A1-1
B5-4	大東文化大学入学試験委員会規程
B5-6	大学 HP 入試情報 http://www.daito.ac.jp/admission/index.html
B5-11	大学ホームページ（自己点検・評価活動） http://www.daito.ac.jp/information/examine/inspection/index.html 《既出》B1-16
B5-21	大学ホームページ（情報公開） http://www.daito.ac.jp/information/open/index.html 《既出》B1-6
B5-22	大学データ集 《既出》B1-22
＜大学基礎データ＞	
d1-表 3	学部・学科、大学院研究科、専門職大学院の志願者・合格者・入学者の推移
d1-表 4	学部・学科、大学院研究科、専門職大学院等の学生定員及び在籍学生数
〔追加資料〕	